

がん治療の三つの柱として、手術療法、放射線療法、薬物療法（抗がん剤治療など）が挙げられます。がんの種類と進行度などを踏まえて、これらを単独あるいは組み合わせて行うことが、標準的な治療法として推奨されています。こうした治療の中でいつでも、苦痛を和らげる「緩和ケア」は行われます。

手術療法

がんを手術によって切除します。小さな穴を数か所開け器具を挿入して手術する内視鏡下手術やロボットの力を借りた手術といった、傷が小さく体への負担が少ない手術も増えてきています。

放射線療法

放射線をあてることによってがん細胞を死滅させ、がんを完治させたり症状を取り除いたりします。放射線療法は通院で行うことができ、体への負担も比較的少ない治療法です。

薬物療法



抗がん剤などの薬を服用あるいは点滴・注射するなどして、がん細胞の増殖を抑えます。薬物療法には化学療法（抗がん剤療法）、内分泌療法（ホルモン療法）、分子標的療法などがあります。より有効で安全な新薬が、厳しい国の審査により承認され、治療の選択肢が広がってきています。

副作用

がん治療の内容によって次のような症状が出る場合があります。これを副作用といいます。

症状例：吐き気、脱毛、下痢、便秘、口内炎、手足のしびれ、皮膚障害、食欲不振など



緩和ケア

がん^{しんだん}と診断されると多くの人は気持ちが落ち込みます。また、診断を受けた時には、すでに痛みや息苦しさなどの症状がある場合もあります。緩和ケアは、そのような落ち込みや症状に対して、がん^{しんだん}と診断された時から始まり、いつでも受けることができます。緩和ケアを受けることにより、食欲が増し、よく眠ることもできるようになり、治療を受けながら様々なことに取り組みます。

緩和ケアは、基本的には担当の医師や看護師から受けられます。

それだけでは解決が難しい時には、緩和ケアを専門とする人たちが治療チームと一緒に支えてくれます。

自分らしい生活を続けるためには、辛さ^{つら}を我慢しないことが大切です。また、がんになると、家族にも様々な影響が出ることがあります。たとえば「本人はもっと辛い^{つら}のだから」と気持ちを抑えてしまい家族も辛^{つら}くなってしまうことがあります。そのため、家族が緩和ケアを受けることもできます。家族が自分の気持ちや体をいたわり、生活を大切にすることは、患者本人を支えることにもつながります。苦しい時はお互いさまです。誰かに相談したり、頼ったりすると楽になることがあります。



最近の研究成果による新しいがん治療法

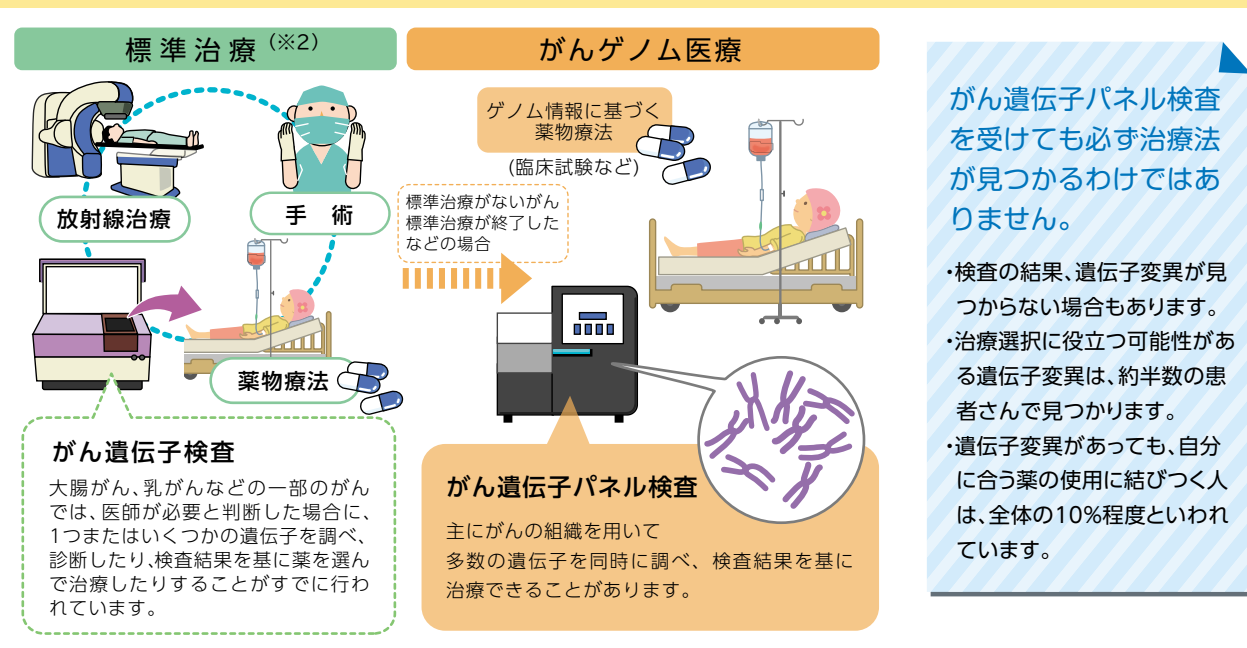
免疫療法

免疫の力を利用してがんを攻撃する治療法。私たちの体は免疫の力によって、発生したがん細胞を排除しています。免疫細胞が弱まったり、がん細胞が免疫細胞にブレーキをかけたりしていると、がん細胞を排除しきれないことがあります。免疫ががん細胞を攻撃する力を保つ（ブレーキがかかるのを防ぐ）ことなどにより、免疫本来の力を利用してがんを攻撃する治療法を「免疫療法」といいます。本庶佑博士は、この治療法でがん細胞が免疫細胞（T細胞）にかけているブレーキをはずす薬の基礎研究を行い、2018年にノーベル生理学・医学賞を受賞しています。



がんゲノム医療

主にがんの組織を用いて、多数の遺伝子を同時に調べ（がん遺伝子パネル検査）、遺伝子変異^(※1)を明らかにすることにより、一人一人の体質や病状に合わせて治療などを行う医療です。



(※1) 遺伝子変異：細胞の中の遺伝子がなんらかの原因で後天的に変化することや、生まれもった遺伝子の違いです。

(※2) 標準治療：科学的根拠に基づいた観点で、現在利用できる最良の治療であることが示され、ある状態の一般的な患者さんに行われることが推奨される治療をいいます。